



THE ROTARY CLUB OF NAGANO WEST

# 長野西ロータリークラブ



例会 毎週金曜日 12:30~13:30 ホテル国際 2 1  
事務局 〒380-0838 長野市県町576 ☎026(235)2800 FAX 026(235)0016  
e-mail:nwrc@sweet.ocn.ne.jp

会長／井上 明彦 幹事／南 信行 クラブ会報委員長／関 幸博  
SAA／小池 裕孝 副 SAA／村田 秀雄

第1263回例会 2013年（平成25年）9月13日（金）

ロータリーを実践しみんなに豊かな人生を  
ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

## 会長挨拶

井上明彦会長

2020年のオリンピック、TOKYOに決定。  
東京五輪再び！（号外9月8日朝日）  
ベエノスアイレスのIOC総会において  
イスタンブール、マドリードに圧勝。  
半世紀前の1964年東京五輪を思い起こします。  
私は17歳の多感な時期で、柔道が中心だったあの頃、マラソンの円谷が倒れてゴールしたあの光景、大松監督率いる東洋の魔女の金メダル。三宅の重量挙げ、柔道の神永、猪熊、体操の遠藤などのメダリストを思い出します。（金16、計29）東海道新幹線の開通は開会直前に滑り込みでセーフ。首都高速道路も突貫工事。東京プリンスホテル、ホテルニューオータニはあの時開業。長野の田舎にいても、なにか日本が誇らしげでした。その後、日本は先進国入りに成功したのです。

1998年長野冬季オリンピックではキューバIOC委員ロペス・ゴンザレス氏のアテンダーとして参加しました。各競技場へ案内したり、五輪の催しへ同行したりして五輪を楽しみました。その後も連絡を取り合いいつの日かのキューバ訪問を語ったものです。

いま再び日本はフォローの風の勢いを感じます。RCの皆さんこの風を受けて開催までの7年間一緒に走りましょう。「福島」の汚染、この難題は今後も残りますが、2020 TOKYO 五輪開催への関わりを考えると楽しみです。高松宮久子妃殿下、佐藤真海さん、滝川クリステルさんの「おもてなし」、招致運動オールジャパンの皆さん大役ご苦労様でした。今日はアルゼンチンワインで祝杯。今日の例会も楽しくお付き合い下さい。

## 9月のお祝い

おめでとうございます



### <結婚記念会員>

吉田真砂彦さん 村田弘志さん 竹重王仁さん

### <夫人誕生記念>

福澤恵子さん 飯田幸子さん 小出ゆかりさん  
小林まさ子さん 村田美佐子さん 山田美津子さん

### <会員誕生記念>

伊藤宗正さん 伊東義次さん 小林健治さん  
大橋東二郎さん 山口和彦さん 吉田真砂彦さん

## 幹事報告

南 信行幹事

- ・9月ロータリーレート 1ドル=100円
- ・10月は行事が盛りだくさんです。  
10月11日ガバナー訪問。20日地区大会。  
26日森林（もり）例会。27日秋の親睦ゴルフと、松茸鍋懇親会。ふるってご出席ください。
- ・ガバナーエレクト事務所開設について  
次期ガバナーは伊那RCの中川博司さんです。
- ・次週20日の例会場は2階弥生の間に変更です。

9 / 20 本日のプログラム

ゲスト卓話 八田 慎蔵さん  
「佐久間象山と八田家」

出席・ニコBOX報告 大橋東二郎例会運営委員

9/13(会員54名) 出席31名々々回修正出席率91.47%

**ゲスト** 長尾晃さん(美術研究家、一級建築士)

- ・山口和彦さん☆職場例会でただ一人サプライズのバースディケーキを頂きました。美味しく頂戴しました。
- ・青木茂人さん☆突発性難聴で耳が不自由になり補聴器を使うようになりました。声をかけられても気づかぬ事がありますのでご容赦下さい。
- ・伊東義次さん☆大橋先生おかげさまで元気になりました。ありがとうございます。復活!!
- ・大橋東二郎さん☆伊東さんお疲れ様でした。神様がくれた休養を、十分とれたでしょうか・・・お大事に。
- ・小出昭雄さん☆ご無沙汰。13日の金曜日です。
- ・竹村利之さん☆卓話シリーズ「松代学」第一回目です。長尾晃さんよろしくお願い致します。

・合計 19,000円 ・スヌーピー 4,954円

・累計 143,110円

10月27日(日)秋の親睦ゴルフと松茸鍋懇親会について

すでにご案内しましたが、大勢の皆様のご参加をお待ちしています。 中野会員家族委員長

**講師紹介** 竹村利之さん

私は10年程前から松代の街並み環境整備事業に関わっています。それで文化の面、人脈について調べたところ、文化財は長野市に次いで多く、また佐久間象山、初代藩主の真田信之侯はじめ人脈もまた凄く厚く、豊富で挙げたらきりがありません。松代は300年間長野市と共に発展してまいりました。そんなところを卓話シリーズ「松代学」としてご紹介できたらいいなと思っています。

今日はその中でも、埋もれた元祖女性芸術家の恩田緑蔭について、1965年長野生まれの美術研究家でもある長尾さんにお話し頂きます。

#### 例会案内

9月27日 千木良賢作ガバナー補佐訪問例会  
会員卓話 若麻績信昭さん

#### ゲスト卓話 長尾 晃さん

「信州松代藩の生んだ女流画家 恩田緑蔭物語」



平成25年9月13日の例会において恩田緑蔭(信州元祖女流画家)のお話を40枚ほどのスライド画像を交えてさせていただきました。

緑蔭は1819年から1874年まで、すなわち江戸時代の終わりから明治時代のはじめにかけて、信州松代藩に生きた女性画家です。ご覧いただいた通り、大変見事な作品を描き残していたにもかかわらず、その死後百数十年の間、表に現れることなく、21世紀を迎えてのち、その諸作品が世に出てくるようになったという、とても特異な存在であり、また信州の元祖女流画家、元祖女性芸術家であることも判明しています。

緑蔭一族の子孫である長野市松代町の八田家(旧恩田家)で、多くの作品が秘蔵されてきたことに加え、生前においては、女性の社会的立場が現在ほどには認められていなかったことも、緑蔭を「秘められた存在」にした大きな要因であったと思われます。

松代在住の当方も、35歳くらいになるまで緑蔭の存在を全く知らず、八田さんのお店「お休み処 日暮し庵」にて初めて緑蔭の作に接したときは大変な衝撃を受けました。その感動は収まることなく、それから緑蔭に関して調査をさせていただくようになり、2004年には『神秘なる乙女の画家の物語-信州松代藩恩田緑蔭アンソロジー』を出版することができました。現在版元では品切れのようですが、ネット通販「アマゾン」では古書として流通しており、また県や市の図書館にも置いてありますので、お読みいただくと大変嬉しく思います(図版も多数掲載されています)。もっともっと多くの方に知っていただきたい、長野県が生んだ元祖女性芸術家です。



恩田緑蔭「写生集巻」より